

日本ブランド発信事業

車いすからパラリンピック、そして2020年

実施日：令和2年3月2日～7日 於：ラオス（ビエンチャン）、 Bangladesh（ダッカ）

■ 派遣専門家



田口 亜希

日本郵船株式会社 広報グループ 社会貢献チームに所属。パラリンピアン、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会副会長

パラリンピックのアテネ2004大会、北京2008大会、ロンドン2012大会に射撃選手として3大会連続出場。東京2020聖火リレー公式アンバサダー、東京2020組織委員会アスリート委員、エンブレム選考委員等を務める。日本郵船に勤務する傍ら、パラスポーツの普及・支援活動を通じ、共生社会の実現に向け取り組んでいる。

■ 事業概要



ラオスでは講演会に続き、ラオス・パラリンピック委員会への草の根文化無償協力署名式に参加。現地紙インタビューにも応じた。



Bangladeshでは講演会の他、Bangladesh・オリパラ委員会の会長ら幹部と懇談。また、特別支援学校やスポーツ施設を訪問した。

■ 実施結果

パラリンピアン田口亜希さんが、ラオスとBangladeshを訪問。両国首都のビエンチャン、ダッカにて、自らの経験談を交えながらパラスポーツの意義やパラリンピックの歴史、共生社会に向けた取組等について講演し、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた機運を醸成しました。

ラオスでは、パワーリフティング競技でラオスから東京パラリンピックへの出場を目指す選手と共に講演。また、ラオス・パラリンピック委員会に障害者スポーツ器材を供与する日本の草の根文化無償協力事業の署名式典にも参加した他、教育スポーツ大臣兼オリパラ委員会委員長らとも面会しました。

Bangladeshでの講演会には、青少年スポーツ大臣やオリパラ委員会会長らが出席し、多数の学生や教育・スポーツ関係者など幅広い層の聴衆が集まりました。加えて、オリパラ委員会幹部との懇談、複数のメディア・インタビュー、スポーツ施設や特別支援小学校への訪問等を行いました。